

「新・議会改革・運営ビジョン」の策定を目指した評価モデルの整理(取り組むべき課題の整理案) 議会改革推進委員作成シートまとめ

視点	項目 市議会の方向性 〔議会活動・運営をどう していく〕	議会の「理想的な姿」を実現 するために、これから取 り組むべき課題 【議会プロフィール5】	議会の現在の姿 (課題・解決すべき点) 【議会プロフィール3 の要約】	課題に存在する背景など 【正副委員長案】	実現方策等 【議会プロフィール6】			委員名
					手段・手順・方法 〔何を・どのようにして・どうする〕	達成時期等 〔いつまでに〕	実践していく組織等	
視点1. 戦略プラン	①理想的な姿の構 想	①-2 議会の「理想的な姿」を実現 していくための継続的 に取り組んでいく仕組み づくり		・地方議会評価モデルの取り組 みから明らかになった議会の「理 想的な姿」を実現していくため には、現実とのギャップを埋める努 力が必要不可欠。	現在市民にかかわりのある所から各委 員会に付託して進めている。各委員会 で挙げられた意見を議会改革推進会議 がとりまとめ決定機関に送り進めていく。	2028年には実現している	議会改革推進会議	古川
					議会改革推進会議において、新運営ビ ジョンの進行管理の取組を、毎年度当初 に協議するなど、議会改革推進会議の 新たな運営方法を研究する。	新運営ビジョンの策定前に 進行管理の在り方を決めて おく必要があることから、 2023年度中		井坪
					—	—		下平
						2028年3月		筒井
					1、視点1-③-1による全体像の把握→割 り振った課題に対する各実施計画のとり まとめ→それらを達成するための進捗管 理体制・組織の確立(議会改革推進会議 の在り方検討) ※重要度1、優先順位2 2、継続的な取り組みとするための条例 制定	1、2024年度から新たな管理 体制始動 2、改選期までに条例制定 (2025年度末までに)		清水優
					・2028年を「理想的な姿」の到達点としつ つ、視点1～5を包含し、その実現方策等 の進捗状況を確認し、「理想的な姿」に近 づいているかの確認を行う。	2025～2028		福澤
					・「理想的な姿」を実現していくための継 続的に取り組んでいく仕組みづくりとし て特に議会力の向上について、議会改革 推進会議が主体的に取り組む組織とな り、継続的に取り組めるように制度化して いく	現在の任期中に作り上げる (改選後はメンバーも変わる 可能性があるため)		小林
定期的、見直しと検証の機会や場を持 つ。	—	佐々木						

視点	項目 市議会の方向性 〔議会活動・運営をどうしていく〕	議会の「理想的な姿」を実現するために、これから取り組むべき課題 【議会プロフィール5】	議会の現在の姿 (課題・解決すべき点) 【議会プロフィール3 の要約】	課題に存在する背景など 【正副委員長案】	実現方策等 【議会プロフィール6】			委員名
					手段・手順・方法 〔何を・どのようにして・どうする〕	達成時期等 〔いつまでに〕	実践していく組織等	
視点1. 戦略プラン	③課題解決の具現化	③-1 飯田市議会の「理想的な姿」を実現するため、体系的かつ具体的な目標や、目的達成のための継続性を持った計画づくり	・政策立案により二元代表制としての役割を果たす	・評価モデルの取組から、これまでに「理想的な姿」と「今ある現実の姿」を明らかにしてきた。現実と理想のギャップを埋めていくためには、議会をどのように変え、どのような課題に重点的に取り組んでいくが明らかにしなければならない。 ・継続的な常任委員会活動の質的向上が課題	プロフィール2の「議会が実現すべき理想的な姿」の4項目の実現には市民とのかわりが大変重要と考える。市民との関りは市民会議も良いが、まずは市民モニターを募りご意見をお聞き進めてはどうか。	2025年3月	議会改革推進会議	古川
					常任委員会の機能強化(常任委員会の運営方法の確立と、その内容の議員間の共有)と、その一方で、常任委員会の現行の取組み内容のスリム化の可能性についての検討。	現体制の常任委員会のもとで方向性を出すために、2024年度中		井坪
					—	—		下平
					各常任委員会で政務調査を行って、他の市町村の良い所を議員間討議を通じて掘り下げ飯田市としての手順・方法を定める。	2025年3月		筒井
					実践組織に分担→各実践組織による取り組むべき課題の優先順位付け→実行計画作成 ※緊急度1、優先順位1	今年中(2023年中)		清水優
					・2028年を「理想的な姿」の到達点としつつ、実現方策等を短期的視点(2年以内)と長期的視点(2028年)に区分けを行い進捗状況を確認する。状況に応じて実現方策等を追加、修正する。	2023～2028		福澤
					「理想的な姿」を実現しギャップを埋めるべく、市民の声を反映させた政策立案をしていくため、課題認識を共通のものとして、各実戦組織と連携し議員間討議など積極的に取り組み、過去の提言内容についての検証も行う。	現在の任期中に議員間討議など実施できるタイミングがあれば積極的に取り組み、ベースの構築に取り組む。		小林
					個人および議会全体の学習と研鑽。	—		佐々木

視点	項目 市議会の方向性 〔議会活動・運営をどうしていく〕	議会の「理想的な姿」を実現するために、これから取り組むべき課題 【議会プロフィール5】	議会の現在の姿 (課題・解決すべき点) 【議会プロフィール3 の要約】	課題に存在する背景など 【正副委員長案】	実現方策等 【議会プロフィール6】			委員名	
					手段・手順・方法 〔何を・どのようにして・どうする〕	達成時期等 〔いつまでに〕	実践していく組織等		
視点1. 戦略プラン	③課題解決の具 現化	③-2 飯田市自治基本条例「第 6章市議会の役割」の検 討		<ul style="list-style-type: none"> ・議会改革を担保していくため、地方議会評価モデルの取り組みでは、市民に「信頼される議会」の必要性が浮き彫りとなった。今後、市民との関係性と「新ビジョン」の策定結果を踏まえ、住民福祉の向上につなげていくため、何を条例に規定していくのか検討が求められる。 ・公券を含めた市民と議会と共同して制定した自治基本条例は、市民参加型のプロセスとして継承したい。 ・「評価モデル」から抽出された課題や活動目標を実現し、これを担保するものが、自治基本条例の「議会」の項目では不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に「信頼される議会」・住民福祉の向上・何を条例に規定していくのか・公券を含めた市民会議・議会自治基本条例の「議会」の項目では不足…これら課題は山積しているが今後進めていくうえで「評価モデル」から抽出された課題や活動目標を実現し、これを担保するためにも議会基本条例の策定を進める時期にきているのか 	2028年には策定されている。	議会改革推進会議	古川	
					<ul style="list-style-type: none"> 「飯田市議会議会基本条例」(仮称)の制定を目指す。 ①議会改革推進会議において、制定の必要性、可否の検討 ②全議員による協議 ＜制定を目指すことになった場合＞ ③検討委員会(またはPJ)の設置 ④議会議案検討委員会の設置 ⑤制定 	評価モデルの成果の一つとして象徴的な取組みであることから、いち早く市民に示す必要がある。		<ul style="list-style-type: none"> ①2023年度中 ②2023年度中 ③2024年 ④2024年度中 ⑤2024年度中 	井坪
					自治基本条例第6章の検討及び議会基本条例の必要性の検討。	—			下平
					市民参加型にする為には「参加」と「合意形成」するための双方向コミュニケーションが必要。 「議会サポーター」を募集し、ワークショップ参加者に将来(20年後)の飯田市の姿をえがく。(参加者には1回5,000円を支払う)	2028年3月			筒井
					視点1-①-2と同時検討	改選期まで(2025年度末までに)			清水優
					<ul style="list-style-type: none"> ・細かなものを条例化するのではなく、「議会改革・運営ビジョン」の位置づけ、役割みたいなのを明文化していく。 	2025～2028			福澤

視点	項目 市議会の方向性 〔議会活動・運営をどうしていく〕	議会の「理想的な姿」を実現するために、これから取り組むべき課題 【議会プロフィール5】	議会の現在の姿 (課題・解決すべき点) 【議会プロフィール3 の要約】	課題に存在する背景など 【正副委員長案】	実現方策等 【議会プロフィール6】			委員名
					手段・手順・方法 〔何を・どのようにして・どうする〕	達成時期等 〔いつまでに〕	実践していく組織等	
					自治基本条例の「議会」の項目で不足する部分の洗い出しを行い、検討の過程などにおいて市民参加型の手法を視野に入れた具体的な検討を進める。	現在の任期中に作り上げる(改選後はメンバーも変わる可能性があるため)。		小林
					—	—		佐々木
視点2. 政策サイクル	④住民との対話	④-2 市民との対話、市民からの考えを聞くことについての学び直し		・普段の議会活動に、市民との対話の機会を増やし意見を取り入れていく上では、議員としての心構えや資質が求められる。	議員としての心構えや資質を高めるためにも議会改革推進会議主催の学習・研修会を単発ではなく4年任期の中で長期計画化する。	2024年3月	議会改革推進会議	古川
					次代の議会の姿に求められる「市民との対話」の在り方について、まずは、議員個人の能力開発が必要。議員向け研修会を重ねることによるしかないのでは。	2028年まで継続して実施		井坪
					議会報告・意見交換会の方法の見直しなど充実したものにする。またタウンミーティングや出前講座の幅広い層を対象とした開催。	—		下平
					机上で考えていても住民の意識は把握できないアウトリサーチを行い、質問力と対話力をつける。	2024年3月		筒井
					議員の活動はそもそも、市民との対話や意見をもとに行われている活動である。それを根底に、普段の議会活動に生かしていくためにはどうするべきか。 1、議員個人の質問力、傾聴力向上のための取り組み 2、論点抽出力と論点整理、議員間討議の実践 3、タウンミーティングによる意見聴取	1、年最低1回の研修会等の実施、継続的な取り組み 2、3、必要に応じて開催		清水優

視点	項目 市議会の方向性 〔議会活動・運営をどうしていく〕	議会の「理想的な姿」を実現するために、これから取り組むべき課題 【議会プロフィール5】	議会の現在の姿 (課題・解決すべき点) 【議会プロフィール3 の要約】	課題に存在する背景など 【正副委員長案】	実現方策等 【議会プロフィール6】			委員名
					手段・手順・方法 〔何を・どのようにして・どうする〕	達成時期等 〔いつまでに〕	実践していく組織等	
					<ul style="list-style-type: none"> ・個々の議員活動による意見収集、会派による意見交換や勉強会、各委員会による所管事務調査や分野別意見交換会、そして議会全体として取り組む議会報告・意見交換会やタウンミーティングを基点として、委員会や会派等における課題の共有、議会全体としての政策提言につなげる。 	2023～2028		福澤
				<ul style="list-style-type: none"> ・議案や全協で取り扱った内容について、市民生活に直結するであろう事柄について課題認識を共通のものとして、議会また議員として市民との対話に勤め、民意を積極的に取り入れ執行機関側へ伝えていく。 	議会全体の課題認識となるものがあれば、即行動に移していく。			小林
				<ul style="list-style-type: none"> ・各議員の意識改革が必要になると思う。学習方法としては、ファミリーセッションや傾聴・対話の技術を講師を呼んで学ぶ。 	—			佐々木
視点3. 条件整備	⑧能力向上	⑧-1 議会の理想的な姿の実現に向けた、「議会人」としての必要な能力の明確化と計画的な能力伸長のための仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・議員力と議会としての質問力アップのための「たかが一般質問…」をどう活かすか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議員力と議会としての質問力アップのための「たかが一般質問、されど一般質問」を作成しマニュアル化したのが、実践に結び付いているとは言い難い点もある。 ・質問力、論点抽出力など、議会人として必要な能力やスキルを明らかにしたうえで、議員個々の資質の向上が求められている。 	上記同様		議会改革推進会議	古川
				議員個人々々の能力向上は、本人の意識によるところが大きいことから、議会改革の着実な推進と定期的な研修会の開催を通じた、議会全体の能力向上に取り組む。	2028年まで継続して実施			井坪
				委員会等に論点整理や論点抽出を多く取り入れる。	—			下平
				現実の議会に軸足を置いた議論ばかりでなく、25年後の将来に軸足を念頭においた2050年に生きている未来人の考えを採用するためのデーターの分析と仮想将来について議論する。	2024年12月			筒井
				議員個人の質問力、傾聴力向上のための取り組み・研修会や勉強会の実施	年最低1回の研修会等の実施、継続的な取り組み			清水優

視点	項目 市議会の方向性 〔議会活動・運営をどうしていく〕	議会の「理想的な姿」を実現するために、これから取り組むべき課題 【議会プロフィール5】	議会の現在の姿 (課題・解決すべき点) 【議会プロフィール3 の要約】	課題に存在する背景など 【正副委員長案】	実現方策等 【議会プロフィール6】			委員名
					手段・手順・方法 〔何を・どのようにして・どうする〕	達成時期等 〔いつまでに〕	実践していく組織等	
					・議員個々の資質の向上を図り、議員活動により見識を広げる。自身の議員活動、一般質問等のふり返りを行う。	2023～2028		福澤
					まずは質問力、論点抽出力など、議会人として必要な能力やスキルを明らかにし、「たかが一般質問、されど一般質問」を改めて確認、活用し、議員個々の資質の向上を目指したプロジェクトを立ち上げる(強制参加とするか、任意とするかは議論が必要)。	今年度中に検討しどのような手法が有るか方向性を示すまでは実施する。		小林
					各地区のまちづくり委員会の方に傍聴にきていただいて、忌憚のない感想や意見を出してもらおう。	—		佐々木
視点3. 条件整備	⑩内部資源と外部連携の活用	⑩-1 所管事務調査などにおける専門的知見の活用		・外部資源の活用は有効であると認識しているが、委員会活動において、専門家を招聘するなど、「参考人制度」を活用している事例が少ない。 ・政策立案・提言、議案審査を充実させていくためには、専門的知見の活用は欠かせない。	政策立案・提言、議案審査を充実させていくためには、専門的知見の活用は欠かせないため、議会専任の講師・教授など予算を伴うが置くべきではと考える。	2025年3月までには条例化し進める。	議会改革推進会議	古川
					①学識経験者など「の複数名からなる「飯田市議会アドバイザー設置要綱」を制定し、専門的知見、改革の継承を習得・活用する。 ②議選の監査委員との連携方法を探る。	①2024年度中 ②2024年度中		井坪
					委員会審議を充実したものとするために、勉強会の開催を多くしその際に専門家を招聘し意見を伺う。所管事務調査は現在も充実していると思うが、その後に活かす工夫が必要。	—		下平
					「参考人制度」を活用するためにどのような専門的知見をもった人の講義が聞きたいか議会全体にアンケート調査をする。	2024年12月		筒井
					必要に応じて実施	必要に応じて実施		清水優

視点	項目 市議会の方向性 〔議会活動・運営をどうしていく〕	議会の「理想的な姿」を実現するために、これから取り組むべき課題 【議会プロフィール5】	議会の現在の姿 (課題・解決すべき点) 【議会プロフィール3 の要約】	課題に存在する背景など 【正副委員長案】	実現方策等 【議会プロフィール6】			委員名
					手段・手順・方法 〔何を・どのようにして・どうする〕	達成時期等 〔いつまでに〕	実践していく組織等	
					・委員会の所管事務調査として、「参考人制度」を活用する。	2023～2028		福澤
					所管事務調査などにおいて、必要に応じて専門的知見を積極的に活用できるよう、外部の協力者や、議会事務局からのアドバイスを活用する。	今後、具体的に取り組みそうな事例があれば積極的に専門的知見を活用し、好事例の蓄積を図る。		小林
					—	—		佐々木
視点5. ふり返りと 学び	⑮ふり返りの取り組み方 ⑯ふり返りの結果活用	⑮⑯-3 地方議会評価モデルの進行管理の在り方検討		・全議員で取り組んできた地方議会評価モデルを今後とも活用しながら、住民の福祉の向上を目指していくためには、進行管理のあり方が極めて重要。	進行管理のあり方として議会独自の議会基本	2025年3月までには条例化し進める	議会改革推進会議	古川
					議会改革推進会議において、評価モデルの「実施報告書」の振り返り、及び、新運営ビジョンの進行管理の取組を、毎年度当初に協議する。	毎年度当初		井坪
					現在の議会改革推進会議に変わる、新しい仕組みの組織が必要。	—		下平
					評価モデルがどこまで進んでいるか目でわかる進行管理表をつくる。	2024年3月		筒井
					視点1-①-2と同時検討	改選期まで(2025年度末までに)		清水優
					・2028年を「理想的な姿」の到達点としつつ、年度ごとに実現方策等の進捗状況を確認し、全議員で内容を共有する。	2023～2028		福澤
					議会改革推進会議が主体となり、実戦組織へ依頼した実現方策をとりまとめ議会改革運営ビジョンの方式を活用しながら住民福祉の向上という視点を持ち毎年度確認作業を行う。	実践組織から上がってきたものを随時とりまとめ、完全な形ではなくても現在の任期中にはベースを作成する。		小林
					—	—		佐々木